

「地域の社会－空間」の評価・再生とその方法 －実践と研究をつなぐ－

石橋 知也¹・二井 昭佳²・福島 秀哉³・山口 敬太⁴
・尾野 薫⁵・木村 優介⁶・白柳 洋俊⁷

¹正会員 福岡大学助教 工学部社会デザイン工学科 (〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1)
E-mail:tomoya@fukuoka-u.ac.jp

²正会員 国士舘大学准教授 理工学部まちづくり学系
E-mail:nii@kokushikan.ac.jp

³正会員 東京大学大学院助教 工学系研究科社会基盤学専攻
E-mail:fukushima@civil.t.u-tokyo.ac.jp

⁴正会員 京都大学大学院助教 工学研究科社会基盤工学専攻
E-mail:yamaguchi.keita.8m@kyoto-u.ac.jp

⁵正会員 徳島大学大学院助教 社会産業理工学研究部社会基盤デザイン系
E-mail:kaoru_o@ce.tokushima-u.ac.jp

⁶正会員 京都大学大学院助教 工学研究科社会基盤工学専攻
E-mail:kimura.yusuke.8m@kyoto-u.ac.jp

⁷正会員 愛媛大学大学院助教 理工学研究科生産環境工学専攻
E-mail:shirayanagi@cee.ehime-u.ac.jp

これまで景観工学の分野では、環境と人間の視覚を主とする関係が議論されてきた。この議論を基礎としつつも、社会的課題の拡大にともなう土木計画学の取り扱う対象の多様化や複雑化に対応するために新たな論点を提示する必要がある。そこで本セッションでは、従来の景観研究の枠組み拡張を試み「地域の社会－空間」という軸を設定し、その評価・再生や方法論、さらには実践の研究へのフィードバックについて集中的に討議を行う。具体的には、社会関係と空間形成、集合的記憶、復興計画に代表される地域社会－空間の再編、参加による場の創出、等を主題として取り上げ、今後も本テーマについて継続的に議論するための場としたい。

Key Words: *Community and spatial structure in region, Evaluation, Regeneration, Methodology, Landscape engineering*

1. はじめに

これまで景観工学の分野では、環境と人間の視覚を主とする関係が議論されてきた。この議論を基礎としつつも、社会的課題の拡大にともなう土木計画学の取り扱う対象の多様化や複雑化に対応するために新たな論点を提示する必要がある。そこで本セッションでは、従来の景観研究の枠組み拡張を試み「地域の社会－空間」という軸を設定し、その評価・再生や方法論、さらには実践の研究へのフィードバックについて集中的に討議を行う。

本稿では、予定しているセッションの構成を示し、議論の視点について述べる。

2. セッションの構成

本セッションは趣旨説明ののち、前段では3題の話題提供、後段では話題提供者および討議者で議論するという構成とする。

(1) 趣旨説明

本セッションの企画に至った経緯ならびに趣旨(図-1)について説明し、議論の前提となる枠組みや問題意識を整理する。(石橋)

(2) 話題提供 1

新たな「景観学」の可能性について、地域をデザイン

するという観点から空間（社会を含む）の計画論（地域らしさやアイデンティティを基盤とした計画論）を再考することについて話題提供を行う。（山口）

(3) 話題提供 2

計画論に向けた実践の例として、岩手県大槌町吉里吉里地区の復興計画の実践に触れながら、地域社会と空間の再生における枠組みや課題について話題提供する。（二井）

(4) 話題提供 3

地域の読み解きの例として、空間計画における「地域の主体性の再構築」に向け、具体の対象地における地域の社会と空間の歴史的関係の変遷の可視化とその分析結果を紹介し、計画論（土木計画分野）への接続について話題提供する。（福島）

3. 議論の視点

主に、以下の視点を考慮して、話題提供者3名ならびに討議者3名（尾野、木村、白柳）を中心に議論し、会場全体で共有することを想定している。とくに、景観分野以外の土木計画研究者・実務者等の皆様の積極的なご参加を期待いたしております。

- ・土木計画分野の種々の課題は「地域の社会－空間」の軸を設定することでどのように見えてくるか
- ・「地域の社会－空間」の研究領域や関連学問について
- ・計画学における実践と研究の橋渡しについて
- ・新たな「景観学」の方法論や対象とは何か

(2017. 4. 28 受付)

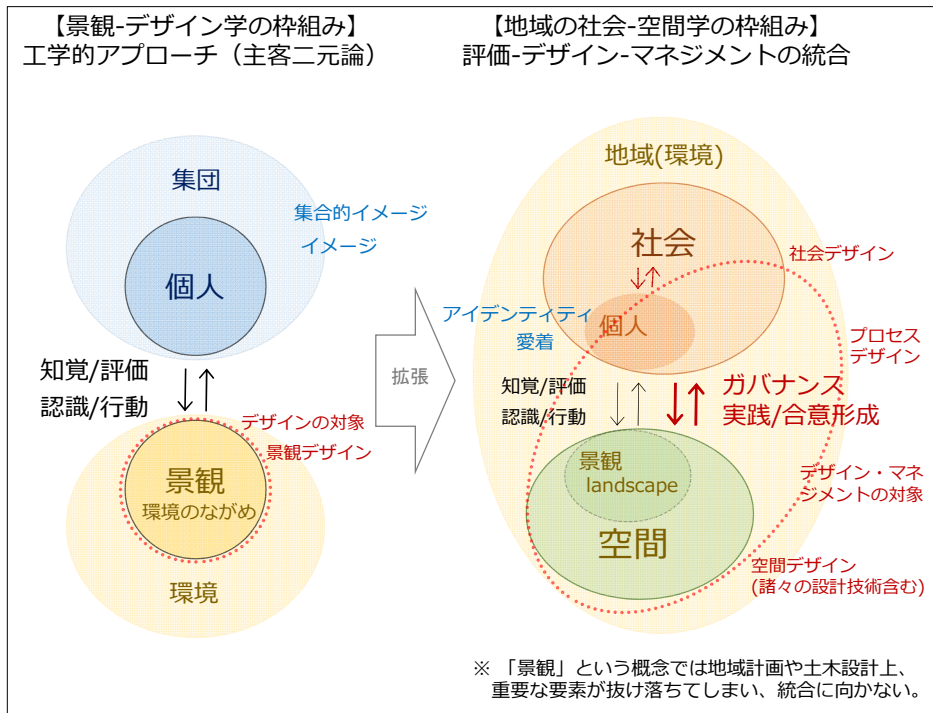


図-1 「地域の社会－空間」の概念図（京都大学・山口 作成）

EVALUATION, REGENERATION AND METHOD OF “COMMUNITY AND SPATIAL STRUCTURE IN REGION” -TO LINK PRACTICE WITH STUDY-

Tomoya ISHIBASHI, Akiyoshi NII, Hideya FUKUSHIMA, Keita YAMAGUCHI, Kaoru ONO, Yusuke KIMURA and Hirotoishi SHIRAYANAGI

In the field of landscape engineering, the visual relationship between human beings and environment has been discussed mainly. Based on this discussion, it is necessary to show new points of discussion in order to respond to the diversification and complication of objects to be dealt with by infrastructure planning engineering with the expansion of social issues. This session sets the axis of “community and spatial structure in region” to attempt expanding the framework of existing landscape study, and focuses on the evaluation, regeneration, methodology and feeding back practice to study. Participants will discuss about social relations and spatial formation, collective memories, etc.